

学科名	学年	授業のタイトル (科目名)	
工業専門課程 情報処理システム科	2	気象観測	
授業の種類	授業担当者	実務経験	
<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	中西 秀夫	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
[実務経歴]			
<p>民間の気象会社で予報業務を23年担当。 企業向けの防災セミナーを担当。</p>			
単位数 (授業の回数)	時間数	配当時期	必修・選択
2 単位 (30 回)	60 時間	<input type="radio"/> 前期 <input type="radio"/> 後期 <input checked="" type="radio"/> 通年	<input type="radio"/> 必修 <input checked="" type="radio"/> 選択
[授業の目的・ねらい]			
<p>予報のもとになる気象観測の種類と原理を理解する。</p>			
[授業全体の内容の概要]			
<p>①地上気象観測 ②高層気象観測 ③気象衛星観測 ④気象レーダー観測</p>			
[授業終了時の達成課題(到達目標)]			
<p>予報に必要な気象観測の知識を身につける。</p>			
[準備学習の具体的な内容]			
<p>毎授業ごとに復習の有無の確認を行い、講義・実習を進める。授業終了時には、講義内容の確認と次回の授業内容を説明し、復習・予習ができるようにする。また、長期休みの時は、課題を実施する。</p>			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び評価の基準]	
<p>使用テキスト プリント教材(日本コンピュータ専門学校)</p> <p>参考文献 必要に応じて授業の中で紹介する。</p>		<p>定期試験と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・試験の点数は60点以上を合格点とする。 ・全出席日数の4分の3以上の出席が必要。</p> <p>評価基準 定期試験80%、平常点(出席、講義の参加度)20%とする。</p>	
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1回	地上気象観測①		
2回	地上気象観測②		
3回	地上気象観測③		
4回	海上気象観測		
5回	航空気象観測		

6回	高層気象観測①
7回	高層気象観測②
8回	まとめと振り返り
9回	気象衛星観測①
10回	気象衛星観測②
11回	気象衛星観測③
12回	気象衛星観測④
13回	気象衛星観測⑤
14回	気象衛星観測⑥
15回	まとめと振り返り
16回	気象レーダー観測①
17回	気象レーダー観測②
18回	気象レーダー観測③
19回	気象レーダー観測④
20回	気象レーダー観測⑤
21回	気象レーダー観測⑥
22回	まとめと振り返り
23回	地上気象観測記号の読み取り実習
24回	海上気象観測データの読み取り実習
25回	高層気象観測データの読み取り実習
26回	気象衛星観測データの読み取り実習
27回	気象レーダー観測データの読み取り実習①
28回	気象レーダー観測データの読み取り実習②
29回	気象レーダー観測データの読み取り実習③
30回	まとめと振り返り